

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年1月31日

上場会社名 積水化成品工業株式会社 上場取引所 東
コード番号 4228 URL <https://www.sekisuikasei.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	97,592	4.8	492	205.4	768	220.8	△244	—
2023年3月期第3四半期	93,089	5.4	161	△74.7	239	△67.1	△245	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 △994百万円 (—%) 2023年3月期第3四半期 1,350百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	△5.40	—
2023年3月期第3四半期	△5.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	147,809	56,967	38.0
2023年3月期	145,175	58,464	39.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 56,220百万円 2023年3月期 57,723百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	3.00	—	9.00	12.00
2024年3月期	—	3.00	—		
2024年3月期（予想）				9.00	12.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	130,000	4.3	1,300	63.9	1,700	141.3	550	21.5	12.15

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	46,988,109株	2023年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1,614,134株	2023年3月期	1,714,425株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	45,333,859株	2023年3月期3Q	45,242,697株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済におきましては、個人消費を中心に回復の兆しが見えるものの、ウクライナ紛争や中東情勢の悪化、資源価格の不安定化、また中国景気の減速懸念等により、先行き不透明な状況が続いております。自動車産業においては、サプライチェーンの回復により、自動車生産は地域やメーカーによって生産活動にばらつきはあるものの全般的に回復基調にあります。エレクトロニクス関連においては、テレビ、モニター用途の需要が、落ち着き始めております。一方、日本経済は、新型コロナウイルス感染症の第5類への移行や入国制限の緩和により、社会経済活動が正常化し、緩やかな回復傾向がみられるものの、資源価格の高騰や円安の影響などにより、不透明感を払拭できない状況が続いております。また、温室効果ガス排出量削減や気候変動問題など環境課題への対応は、重要性を増しております。

日本の発泡プラスチック業界におきましては、食品容器関連の需要は、人流の増加がありましたが、物価上昇などの影響もあり、内中食関連向けの需要は落ち着きをみせております。一方、各種部材や搬送資材・梱包材は、需要が回復傾向にあります。

このような経営環境のなか、当社グループは、前年度からスタートさせた3カ年中期経営計画「Spiral Up 2024」の3つの重点課題に対してグループ全体で取り組んでおります。『収益体質の強化』においては、経営資源の選択と集中による事業ポートフォリオの再構築と抜本的な生産革新や開発品の早期収益化に取り組んでおります。『環境・社会課題解決型事業への転換』においては、「循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大」と「カーボンニュートラル実現への挑戦」を掲げ、SKG-5R(※)活動の一層の強化を図っております。食品容器用途では、プラスチック使用量の削減を可能にする新たな素材として「エスレンシート PZシリーズ」を株式会社エフピコと共同開発することに成功しました。また自動車部品の物流梱包材用途では、リサイクル原料を活用した「ピオセラン RNW」が、トヨタ自動車株式会社の電動部品物流用途のリターナブル資材に採用されました。今後も持続可能な社会の実現に向けて循環型社会への貢献に取り組んでまいります。『経営基盤の強化』においては、事業を通じて社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上につなげている企業を評価する「第5回日経SDGs経営調査」において、5年連続で3星に認定されました。引き続き事業を通じた社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上に努めてまいります。

売上面においては、ヒューマンライフ分野では、環境貢献製品の販売拡大に努めるものの、水産など主要用途での需要が減少となり、また年末需要も伸び悩み厳しい状況となりました。一方、インダストリー分野では、各地域により差があるものの、各領域での回復需要の取り込みを進めてまいりました。

利益面においては、エネルギー価格高騰に対して原価低減や固定費の削減、そして販売価格への転嫁など収益改善に取り組みました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は975億9千2百万円（前年同期比4.8%の増加）、営業利益は4億9千2百万円（前年同期比205.4%の増加）、経常利益は7億6千8百万円（前年同期比220.8%の増加）、さらに法人税等を減算し、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億4千4百万円（前年同四半期は2億4千5百万円の損失）となりました。

※「SKG-5R」は、SKGは積水化成成品グループ、「5R」は、Reduce, Reuse, Recycle, Replace, Re-createを指します。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<ヒューマンライフ分野>

ヒューマンライフ分野の売上高は374億5千4百万円（前年同期比5.5%の減少）、セグメント利益は15億5千9百万円（前年同期比16.7%の減少）となりました。

食領域においては、食品容器用途は食材価格の値上げの影響も受け、内中食関連向けの需要は伸び悩みました。農産用途は生育不良や天候などの影響もあり出荷が伸びず、水産用途も漁獲量の減少傾向が継続し低調に推移しました。売上高は価格改定による増加はありましたが、全体的には前年を下回る結果となりました。

住環境・エネルギー領域においては、屋上緑化関係での物件獲得は進みましたが、建材用途・土木用途は工事物件の進捗遅れなどがあり低調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」（発泡ポリスチレンシート）の売上数量は、納豆容器用途は堅調に推移し、生鮮食品容器用途は回復傾向となりました。また、新たに開発した省資源素材「エスレンシート PZシリーズ」は新規需要を取り込み、数量を伸ばしましたが、即席麺用途の市場動向による影響もあり、全体では前年を下回りました。「エスレンビーズ」（発泡性ポリスチレンビーズ）の売上数量は、クッション用ビーズなどのライフグッズ用途の出荷が減少し、水産分野は継続して低調になったことで、全体では前年より減少しました。

利益面では、原価低減や固定費削減、販売価格への転嫁、また製品移管運賃の低減などを図りましたが、売上数量の減少により減益となりました。

<インダストリー分野>

インダストリー分野の売上高は601億3千7百万円（前年同期比12.5%の増加）、セグメント利益は8億5百万円（前年同四半期は7億5千万円の損失）となりました。

モビリティ領域における、「ピオセラン」（ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体）の販売は、自動車部材用途では、上期前半は一部自動車メーカーで部品不足の影響が残ったものの、自動車生産台数の回復を背景に好調に推移しました。部品梱包材用途では、地域によっては、電動部品梱包用途での需要が一巡したところもあり、全体として前年を下回りました。また、トラック、バス向けのFRP（繊維強化プラスチック）部材ならびに関連資材などで新たな需要を取り込み好調に推移しました。

欧州のProseatグループでは、欧州自動車市場は緩やかに回復する中、生産量は増加しております。そのような中で、エネルギー価格、人件費の高騰に対し、生産性改善、固定費削減や自動車メーカーへの価格転嫁を進めており、改善効果もみられていますが赤字が継続しております。

エレクトロニクス領域においては、「テクポリマー」（ポリマー微粒子）の液晶パネル等の光拡散の用途では、液晶パネルメーカーの在庫調整が解消され需要が回復し、順調に推移しました。パネル搬送資材・梱包材用途での「ピオセラン」は、台湾での需要は回復、好調に推移しましたが、中国では国内消費の低迷により需要回復が遅れ前年を大幅に下回りました。

医療・健康領域においては、「エラストイル」（熱可塑性エラストマー発泡体）は、トレーニングシューズ用のミッドソール関連は、上期で旧モデルの販売が減少したものの、下期には新モデルの販売開始により回復傾向にあります。「テクノゲル（ST-ge1）」（機能性高分子ゲル）は、検診需要の回復に伴い対極板などの医療用途は順調でしたが、低周波治療器用パッドなどの健康用途は低調に推移しました。

利益面では、エレクトロニクス領域での需要回復、モビリティ領域では自動車生産台数が回復していく中で、生産性改善、固定費削減、価格転嫁等に努めた結果、黒字化することができました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,478億9百万円（前連結会計年度末比26億3千4百万円増加）となりました。資産の部では、受取手形及び売掛金などの増加により流動資産が26億5千4百万円増加しました。また、建物及び構築物などの減少により固定資産は2千万円減少しました。

負債の部では、短期借入金などが増加し、流動負債は62億7千3百万円増加しました。また、長期借入金などの減少により、固定負債は21億4千3百万円減少しました。純資産は為替換算調整勘定などの減少により14億9千6百万円減少し、569億6千7百万円となりました。この結果、自己資本比率は38.0%となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、損害保険金の受取額が増加したことなどにより前年同期に比べ20億7千5百万円増加し、24億7千1百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に計上があった投資有価証券の売却による収入の減少などもあり、前年同期に比べ23億8千5百万円の支出が増加し、29億9千1百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入の減少などにより前年同期に比べ23億9千万円の支出が増加し、24億5千2百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて27億6千9百万円減少し、83億2百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期通期連結業績予想は、2023年10月27日公表数値・前提から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,080	8,339
受取手形、売掛金及び契約資産	28,388	31,176
電子記録債権	7,930	9,563
商品及び製品	9,253	8,804
仕掛品	1,909	2,620
原材料及び貯蔵品	5,127	5,182
その他	3,227	3,883
貸倒引当金	△42	△42
流動資産合計	66,874	69,529
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,804	14,272
機械装置及び運搬具(純額)	12,753	12,581
土地	21,492	21,561
その他(純額)	4,653	5,161
有形固定資産合計	53,702	53,576
無形固定資産		
その他	1,763	1,913
無形固定資産合計	1,763	1,913
投資その他の資産		
投資有価証券	14,041	13,819
退職給付に係る資産	6,936	7,065
その他	1,905	1,952
貸倒引当金	△47	△47
投資その他の資産合計	22,834	22,790
固定資産合計	78,301	78,280
資産合計	145,175	147,809

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,026	19,189
電子記録債務	8,263	8,453
短期借入金	13,026	15,783
未払法人税等	1,338	502
賞与引当金	1,010	539
役員賞与引当金	42	47
その他	7,388	9,853
流動負債合計	48,096	54,370
固定負債		
社債	7,000	7,000
長期借入金	18,094	15,509
退職給付に係る負債	3,728	3,920
製品補償引当金	82	57
その他	9,710	9,984
固定負債合計	38,614	36,471
負債合計	86,711	90,841
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,445	16,408
利益剰余金	16,602	15,814
自己株式	△1,382	△1,301
株主資本合計	48,199	47,454
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,440	7,285
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	562	△35
退職給付に係る調整累計額	41	36
その他の包括利益累計額合計	9,524	8,765
非支配株主持分	740	747
純資産合計	58,464	56,967
負債純資産合計	145,175	147,809

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	93,089	97,592
売上原価	74,938	78,143
売上総利益	18,150	19,449
販売費及び一般管理費	17,989	18,957
営業利益	161	492
営業外収益		
受取利息	15	44
受取配当金	349	304
為替差益	—	358
助成金収入	28	178
受取補償金	210	78
その他	130	280
営業外収益合計	734	1,245
営業外費用		
支払利息	366	616
固定資産除売却損	21	37
為替差損	112	—
その他	156	315
営業外費用合計	656	969
経常利益	239	768
特別利益		
投資有価証券売却益	794	—
特別利益合計	794	—
特別損失		
減損損失	—	39
特別損失合計	—	39
税金等調整前四半期純利益	1,033	728
法人税等	1,273	964
四半期純損失(△)	△239	△235
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	8
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△245	△244

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失(△)	△239	△235
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,518	△155
為替換算調整勘定	122	△598
退職給付に係る調整額	△50	△4
その他の包括利益合計	1,590	△758
四半期包括利益	1,350	△994
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,344	△1,003
非支配株主に係る四半期包括利益	5	8

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,033	728
減価償却費	4,209	4,258
減損損失	—	39
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3	△1
受取利息及び受取配当金	△364	△349
支払利息	366	616
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△587	△471
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△20	△24
退職給付に係る資産負債の増減額	△123	57
投資有価証券売却損益 (△は益)	△794	—
固定資産除売却損益 (△は益)	17	33
助成金収入	△28	△178
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,542	△4,433
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△614	△180
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,385	2,114
その他	△499	1,444
小計	1,433	3,654
利息及び配当金の受取額	364	349
利息の支払額	△359	△521
損害保険金の受取額	158	859
助成金の受取額	28	178
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,228	△2,047
営業活動によるキャッシュ・フロー	396	2,471
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,936	△2,650
有形固定資産の売却による収入	69	17
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
投資有価証券の売却による収入	1,390	—
貸付けによる支出	△14	△17
貸付金の回収による収入	1	15
その他	△111	△351
投資活動によるキャッシュ・フロー	△606	△2,991
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,995	2,427
長期借入れによる収入	8,518	1,500
長期借入金の返済による支出	△9,416	△5,114
配当金の支払額	△446	△537
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
その他	△711	△726
財務活動によるキャッシュ・フロー	△62	△2,452
現金及び現金同等物に係る換算差額	△31	202
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△304	△2,769
現金及び現金同等物の期首残高	10,503	11,072
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,198	8,302

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	39,537	16,715	56,253	—	56,253
欧州	—	24,301	24,301	—	24,301
アジア	93	9,685	9,779	—	9,779
その他	—	2,755	2,755	—	2,755
顧客との契約から生じる収益	39,630	53,458	93,089	—	93,089
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	39,630	53,458	93,089	—	93,089
セグメント間の内部売上高 又は振替高	433	124	557	△557	—
計	40,064	53,583	93,647	△557	93,089
セグメント利益又は損失(△)	1,872	△750	1,121	△881	239

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△881百万円には、セグメント間取引消去△2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△879百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオミクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、ST-Elevat、これら成形加工品など

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	37,432	19,414	56,846	—	56,846
欧州	—	28,187	28,187	—	28,187
アジア	22	9,157	9,180	—	9,180
その他	—	3,378	3,378	—	3,378
顧客との契約から生じる収益	37,454	60,137	97,592	—	97,592
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	37,454	60,137	97,592	—	97,592
セグメント間の内部売上高 又は振替高	460	95	555	△555	—
計	37,915	60,233	98,148	△555	97,592
セグメント利益	1,559	805	2,364	△1,595	768

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△1,595百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,595百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライ
フ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー
分野—— ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Elevat、これら成形加工品など